



八中だより



第19号

令和6年1月22日

府中市立

府中第八中学校

『世界に誇れる日本人の規範意識』

校長 高汐 康浩

私はこれまで国内は四十七都道府県、国外は三十カ国以上を訪問しました。そして、国内では、東京都府中市、新潟県、長野県、東京都の伊豆大島に、国外はアルゼンチンに住み生活した経験があります。国内でも国外でもその土地に根付いた習慣や文化、方言などがあることを知り驚くことが多かったのです。新潟県では新潟市に六年間住みました。新潟市の皆さんは、道端で知り合いに会ったときにどのようなあいさつをするのでしょうか。「こんにちは」という言葉は、ほとんど使われません。「ごめんください」というのです。それは電話でも同じです。「ごめんください、高汐ですが、〇〇さんはいらっしゃいますか？」このような感じですが、長野県では山ノ内町と白馬村で生活しました。白馬村では朝のあいさつで「おはようございます」というと「おはようございました」と返されてびっくりしました。東京都の伊豆大島では、語尾に「くずら」という言葉が付きまします。「明日は運動会があんずらから、早く寝た方がいはずら」このようにいいいます。アルゼンチンでも似た経験をしました。スペイン語に「Barbano（バルバロ）」という言葉があります。一般的にこの単語にはあまりよくない印象をもちます。日本語でいえば「こんちくしよ」「このやろろ」のようなイメージでしょうか。でも、アルゼンチンでは違います。こんな出来事がありました。隣の家に住む上品な感じの夫婦に、おすそ分けしようと思いい日本のお菓子を持っていきましました。そうしたら、その夫婦は声をそろえて「Barbano（バルバロ）」といったのです。私は驚き、なぜ「こんちくしよ」、こんなももってきやがって「みたいなことをいわれなければならぬのだらうかと戸惑いました。でも、その後、とてもうれしそに、何度も「Muchísimas gracias（最高にありがとうという意味）」といわれました。このことで、アルゼンチンでは Barbano

学びと
思いやり

〒182-0035

府中市四谷一丁目二八二七

電話 〇四二(三六四)一八八一

〈在籍生徒数〉 一学年248名、二学年261名、三学年241名
 全校生徒数750名
 〈学校住所・電話番号〉

★「ふるさと府中を学ぶコーナー」は、府中のことを知ることができ、役立ちます。どうぞ感想をいただきました。

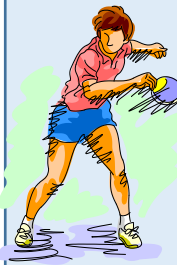
という言葉はうれしいときに使われるのだということを理解しました。前置きが長くなりましたが、学校には子供の規範意識を高めるといふミッションがあります。ここで「規範意識」について考えてみましょう。これまで、多くの国内の地域や他の国の人々と話をしてきました。人は行動するとき、何かを決めるときなどには、よりどころにするものがあります。それは、先ほどの話のとおり地域や国によってさまざまです。どの国の人も、日本という国は美しく、住みやすく、人々は親切でやさしく、ルールが守られている安全な国であるといえます。私は、いつも誇らしい気持ちになります。日本では、はるか昔から「規範意識」が守り続けられてきたのです。いつとき全国的に中学校が荒れていた頃がありました。本校も例外ではなかったと聞いています。その当時はルールを守れない生徒がたくさんいて、教員は、その指導に追われていました。何がこのようないつときの状況を変えてきたのか？その答えのひとつは生徒の規範意識の高まりだといえます。生徒がルールを守ることができマナーを意識できるようになったのです。ルールを守る理由やマナーのある行動をする理由ははっきりしていませんが、ルールなどを破ってよいという理由はまったくないのです。誰もそれを説明できませんし説明しようとしても、それは独りよがり、独善的、自分勝手なことになってしまいます。ときどき、マスコミ等で髪型などの学校のきまりが取り上げられたり話題にされたりすることが多くあります。髪型にしる、服装などにしろ、それがよいとか悪いとかの判断は人によってそれぞれです。年代によっても捉え方は違います。学校は髪型などを批判したり、よいとか、悪いとかについては、何も発信したりしてはいません。学校には世界に誇れる日本人を育てるために、子供たちに確かな規範意識やマナーを身に付けさせるという大きなミッションがあり、それを実現しようとしているのです。この機会に、昔から大切にしてきた『規範意識』や『マナー』について考えを深めましょう。

活躍する八中生

【敬称略】

★卓球部★

- ニッタク杯招待卓球大会 男子 第三位
- 浅倉 陽和太 和田 塔矢 松平 昌大 石川 蓮真 岡部 翔之介 嶺川 英志
- 第九回府中市卓球招待関東中学校卓球大会 男子 第三位
- 浅倉 陽和太 嶺川 英志 石川 蓮真 岡部 翔之介 和田 塔矢 松平 昌大
- 第九ブロック中学校卓球新人大会
- 男子団体 優勝
- 浅倉 陽和太 和田 塔矢 松平 昌大 石川 蓮真 岡部 翔之介 嶺川 英志
- 男子団体 第五位
- 岡本 悠真 杉浦 陽向 新津谷 奏汰 高橋 礼知 綿谷 虎之佑 牧井 琉偉
- 女子団体 第三位
- 西野 実紗希 小山 花帆 畔上 夏実 藤本 ゆずな 村上 佳澄
- 利根川 花奈 細井 優莉 大町 夏花
- 男子シングルス
- 優勝 浅倉 陽和太
- 第五位 松平 昌大
- 第五位 岡部 翔之介



★地域の方から感謝のハガキが届きました！★

第八中学校 校長先生

突然のハガキで失礼いたします。

お礼を伝えたくて、お送りいたしました。

実は十二月二十九日（金）の十九時頃、八中の体操着を着た男子二人が、私が玄関前に置き忘れた携帯電話を届けてくれました。その日、私は荷物が多く、疲れて帰宅したため、玄関のカギを開ける際、下に荷物を置いて、その時に携帯電話をおとしてしまったようです。

男の子二人は、最初、交番に届けてくれたようですが、おまわりさんが不在で、元の場所にもどそうと戻ってきたところだったようです。

わざわざ、私のおとし物に親切にしてください、とてもありがたく、心あたたまる年末となりました。

素敵なやさしい八中生の男の子二人に、ここから「ありがとう」と伝えたいです。お名前をききそびれたので、ぜひ、朝礼などでご紹介いただけると幸いです。



Topics

四谷コミ協『どんと焼きの集い』（一月十四日）

参加した中学生の皆さんは準備の段階から参加し設営などに協力しました。昔から、どんと焼きの火にあたると病気をしない、どんと焼きで焼いた団子を食べると災いや厄（やく）を免れる、竹が燃える大きな音で鬼が逃げる、どんと焼きの火に当たると若返ることができるなどの言い伝えがあります。天気に恵まれ、皆でどんと焼きを楽しむことができました。



シリーズ

ふるさと府中を学ぶ

蓮（はす）の研究家の大賀一郎（おおが いちろう）博士は昭和二十六年（一九五二年）に千葉県検見川の泥炭層（でいたんそう）から、二千年前のものと思われる蓮の実を採集しました。当時府中に住まわれていた大賀博士は、この蓮の実を府中で発芽、開花させました。このことを国内外の報道各社が取り上げたため、「二千年蓮」「大賀蓮」として世界に知られることになりました。

毎年六月から八月に見ごろを迎えます。下の写真は、郷土の森公園の修景池（しゅうけい池）の大賀蓮です。寿中央公園のひょうたん池でも見ることができます。

大賀博士は昭和四十年に亡くなりお墓は多磨霊園にあります。



『武蔵府中郷土かるた』の画像の使用については、府中市ふるさと文化財課の許可をいただいています。